

日本科学史学会 第65回年会
2018年度総会 プログラム

2018年5月26日(土)

- 09:30- 受付開始
- 10:00-12:00 一般講演 (A会場、B会場、C会場、D会場)
- 11:40-12:40 ランチョン討論会 (E会場)
- 12:40-14:00 一般講演 (A会場、B会場、C会場、D会場)
- 14:10-16:40 シンポジウム (A会場、B会場、C会場)
- 16:50-18:20 総会 (F会場)
- 18:40-20:40 懇親会 (図書館レセプションラウンジ)

2018年5月27日(日)

- 09:00-10:20 一般講演 (A会場、B会場、C会場、D会場)
- 10:30-12:10 一般講演 (A会場、B会場、C会場、D会場)
- 12:10-13:10 ランチョン討論会 (E会場)
- 13:10-15:40 シンポジウム (A会場、B会場、C会場)
- 15:50-18:20 シンポジウム (A会場、B会場、C会場)

2018年5月26日（土）一般講演 10：00～12：00

〈A会場〉

- 10：00－ A11 プラクサゴラスと古代ギリシアの医学思想における
「プネウマ」理論の展開 今井正浩
- 10：20－ A12 イブン・アル・ハイサムの場合論 渡邊真代
- 10：40－ A13 ハリオットとガリレオー太陽黒点観測をめぐって 伊藤和行
- 11：00－ A14 書き込みのあるハレーの北天星図について 杉本 剛
- 11：20－ A15 ヴィエト『探究法5巻』における比・比例の扱い 北 秀和

〈B会場〉

- 10：00－ B11 戦前・戦中の技術者団体と八田與一 武長玄次郎
- 10：20－ B12 生物学者と戦争ーパラオ熱帯生物研究所を例として 坂野 徹
- 10：40－ B13 成瀬政男の科学技術思想について 吉葉恭之
- 11：00－ B14 （岩波書店）と「科学史研究会」（2） 渋谷一夫
- 11：20－ B15 第二次世界大戦期のイタリアにおける「発明家レオナルド・ダ・ヴィンチ」
像の形成と日本におけるレオナルド・ブームについて 多久和理実

〈C会場〉

- 10：00－ C11 初期コンピュータ開発におけるアーキテクチャの発展について 小山俊士
- 10：20－ C12 計算科学の黎明期：KDC-I における計算機の利用の意味の変化について
前山和喜
- 10：40－ C13 霞が関ビルの耐震設計（ある知識生産の過程） 有賀暢迪
- 11：00－ C14 大友亀太郎と札幌運河建設技術ー開道150年での北海道土木技術史の特質
山田大隆
- 11：20－ C15 宇宙科学研究所における理学と工学の連携の歴史 加治木紳哉
- 11：40－ C16 フランス革命200年記念日仏モニュメント 本庄孝子

〈D会場〉

- 10：00－ D11 宋以前植物譜録の調査研究 久保輝幸
- 10：20－ D12 中国初の国際新薬「コアルテム」（抗マラリヤ薬）の開発と
523国家プロジェクトについて 黎 潤紅 Li Runhong
- 10：40－ D13 百病之薬、奉客之礼ー16ー17世紀の欧州文献に描写された
中国茶のイメージ 顔 宜袂 Yan Yiwei

2018年5月26日（土）ランチョン討論会 11：40～12：40

〈E会場〉

- 11：40ー12：40 E1 科学史学会の現状問題に関する討論会 学会主催

2018年5月26日(土) 一般講演 12:40~14:00

〈A会場〉

- | | | | |
|--------|-----|--------------------------------|-------|
| 12:40- | A21 | 日本における核物理学発展の社会的諸条件再考 | 伊藤憲二 |
| 13:00- | A22 | 湯川秀樹の京都帝国大学卒業論文関連史料について | 小長谷大介 |
| 13:20- | A23 | 理化学研究所における玉木英彦によるウラン臨界量計算1943年 | 山崎正勝 |
| 13:40- | A24 | 久保亮五の戦中期における研究について—手稿の分析から | 河野洋人 |

〈B会場〉

- | | | | |
|--------|-----|---|------|
| 12:40- | B21 | 佐藤宗次の実験から探る100年前の理化児童実験
高橋浩・赤羽明・所沢潤・玉置豊 | |
| 13:00- | B22 | 大正・昭和期の大学昇格への反対意見にみる工業学校の意味 | 和田正法 |
| 13:20- | B23 | 日本の電気工学系大学教育の課題と Frank A. Polkinghorn : 1948-50
夏目賢一 | |
| 13:40- | B24 | 太田仁吉の『かへる』 : 日本の科学教育における映像メディアの
学習論的・歴史的検討 | 吉岡有文 |

〈C会場〉

- | | | | |
|--------|-----|---------------------------------------|-------|
| 12:40- | C21 | 明治5年以前の史実の月日表示に注意しよう
—明治150年にあたって— | 黒田光太郎 |
| 13:00- | C22 | 久米邦武が論じる「邪馬台国九州説」 | 福川知子 |
| 13:20- | C23 | 東京大学の演説会 | 矢島道子 |
| 13:40- | C24 | 木村駿吉に見る純粋科学と実用の科学 | 益田すみ子 |

〈D会場〉

- | | | | |
|--------|-----|---|------|
| 12:40- | D21 | 徳島県人初の公許女医増野ヤエノ(乾ヤエノ)の足跡 | 西條敏美 |
| 13:00- | D22 | 優生保護法下での優生学的適応による人工妊娠中絶
—地区優生保護審査会の役割を中心に— | 松原洋子 |
| 13:20- | D23 | アルコール医学と地域産業社会
—九州帝大医学部教授、大平得三の禁酒運動から— | 横山 尊 |
| 13:40- | D24 | 江戸時代における新生児への投薬 | 内野 花 |

2018年5月26日(土) シンポジウム 14:10~16:40

〈A会場〉

- S1 帝国大学における研究者の知的基盤に関する研究
吉葉恭行・谷本宗生・加藤諭・小幡圭祐・石澤理加・本村昌文

〈B会場〉

- S2 歴史教育における科学史・技術史の教育的意義

学会主催

〈C会場〉

S3 板倉聖宣の科学史研究と仮説実験授業

多久和俊明・渡辺規夫・宮地裕司・塚本浩司・舟橋春彦

2018年5月27日(日) 一般講演 9:00~10:20

〈A会場〉

- 09:00- A31 量子論黎明期のエピステモロジー 古谷紳太郎
09:20- A32 状態和・分配関数の形成：量子統計力学の研究と教育 1902-1946 稲葉肇
09:40- A33 Heitler-London- 杉浦の考察におけるハミルトン・ヤコビ理論 中根美知代
10:00- A34 1930年代前半におけるカリフォルニア大学の研究条件の変化について
-研究委員会の資料から- 日野川静枝

〈B会場〉

- 09:00- B31 畑井新喜司の東北帝国大学における教育研究思想とその背景 米澤晋彦
09:20- B32 パウル・カンメラーの科学思想 相馬尚之
09:40- B33 岐阜県の高등학교に保管されていた剥製について 説田健一
10:00- B34 日本の植物学者による欧米の専門雑誌掲載論文(1884-1925) 溝口元・高山晴子

〈C会場〉

- 09:00- C31 サイエンスをめぐるエポカル・ブレイクに関する Forman 言説 五島綾子
09:20- C32 武谷三男のヒューマニズムに基づく科学主義 八巻俊憲
09:40- C33 赤堀四郎を読み解く 中野浩
10:00- C34 小川劭氏の物理学史研究について 八木江里・広政真彦・林春雄

〈D会場〉

- 09:00- D31 放射線生物学= 物理化学生物研究所と Alexander Hollaender
らの訪ソ(1960年) ソ連における放射線影響評価の分岐点- 市川浩
09:20- D32 冷戦期米国の科学に関する外交政策と日本の科学研究 栗原岳史
09:40- D33 1940-50年代の英米の心理戦協力と英国の日本への政治戦略 奥田謙造
10:00- D34 ABCC 非治療方針の検討 1950年代の広島を中心に 中尾麻伊香

2018年5月27日(日) 一般講演 10:30~12:10

〈A会場〉

- 10:30- A41 衝突実験をめぐる物理学者と天文学者の微妙な関心の違い 吉田省子
10:50- A42 プレートテクトニクス革命を地質研究者はどのように受容したか；
それぞれの「本質的緊張」 千葉淳一
11:10- A43 日本の地質学における地帯構造区分の変遷と問題点 宮下敦

- 11：30－ A44 気象観測者・村垣範正 山本 哲
 11：50－ A45 警句「天災は忘れた頃来る」のなりたち 初山 高仁

〈B会場〉

- 10：30－ B41 リベラル・アーツとメカニカル・アーツ、百科全書 依田 聖
 10：50－ B42 18世紀オランダの学協会：衰退期の国家における政治と科学 中澤 聡
 11：10－ B43 A. Quetelet の社会物理学構想と統計学 上藤 一郎
 11：30－ B44 山本義隆「世界の見方の転換」と科学ルネサンスの意義 三富 照久
 11：50－ B45 アリストテレス自然学と近代科学 都築 正信

〈C会場〉

- 10：30－ C41 学術会議原子核研究将来計画における体制問題 平田光司・高岩義信
 10：50－ C42 フランス地域情報フォローアップ委員会保管資料 小島智恵子
 11：10－ C43 原子力災害に関わる知識－原賠法成立前後を中心に 横田 陽子
 11：30－ C44 防衛装備庁による大学への介入－「研究不正防止」という装置 山本由美子
 11：50－ C45 日本の学術体制史研究 久保田明子・小沼通二・高岩義信・兵藤友博

〈D会場〉

- 10：30－ D41 『天経或問』の写本流布と和刻本の出版 平岡隆二
 10：50－ D42 佐賀精煉所旧蔵和刻蘭書－シュテックハルト『化学の学校』
 蘭訳書(1850)－ 八耳 俊文
 11：10－ D43 国友一貫斎による太陽黒点スケッチの再評価 野澤 恵・岩橋清美
 11：30－ D44 台湾へ渡った三河・由精堂の和算書群 城地 茂

2018年5月27日(日) ランチョン討論会 12：10～13：10

〈E会場〉

- E2 多重発表に関する討論会 学会主催

2018年5月27日(日) シンポジウム 13：10～15：40

〈A会場〉

- S4 放射線影響評価の国際機関 (UNSCEAR)の歴史と現在－東電福島原発事故の健康影響をめぐる
 日本の論争を理解するために－
 藤岡毅・高橋博子・吉田由布子・山内和也・瀬川嘉之

〈B会場〉

- S5 ジョルジュ・カンギレム再考－哲学と科学史の交錯
 平井正人・田中裕理子・奥村大介・松井久・磯直樹・石渡崇文

〈C会場〉

- S6 全相重先生追悼シンポジウム：『韓国』科学技術史を再考する
 塚原東吾・愼蒼健・金凡性・宮島一彦・全勇勲・武田時昌・宮川卓也

2018年5月27日(日) シンポジウム 15:50~18:20

〈A会場〉

S7 吉岡斉追悼シンポジウムー吉岡斉の現代科学技術史研究とその可能性

綾部広則・川野祐二・佐藤靖・桑原雅子・後藤邦夫・菅波完・黒田光太郎

〈B会場〉

S8 科学史における図像の製作と利用に関して

橋本毅彦・田中裕理子・河野俊哉・吉本秀之

〈C会場〉

S9 日本における黎明期の科学史研究と戦後の復興

溝口元・中村士・山田俊弘・岡田大士・河村豊・佐野正博・渋谷一夫